

# 第11回調査研究フォーラム発表資料 「プレゼンティーズムと医療費の関連について」

---

1. 背景・目的	.....	1ページ
2. 方法	.....	2ページ
3. 対象者の基本特性（性年代別）	.....	3ページ
4. 結果 プレゼンティーズムと医療費の関係	.....	4ページ
5. 考察	.....	10ページ

# 1. 背景・目的

プレゼンティーズム（生産性の低下）は、メンタルヘルス不調の他、アレルギー、片頭痛、生活習慣病等が要因であることが、多くの先行研究において示されている。これらの要因は、医療費に対する影響も少なくない。

本研究は、プレゼンティーズムと医療費との関連を調査し、その実態を把握することで、健康経営に資する事業の実施につなげることを目的とする。

## 2. 方法

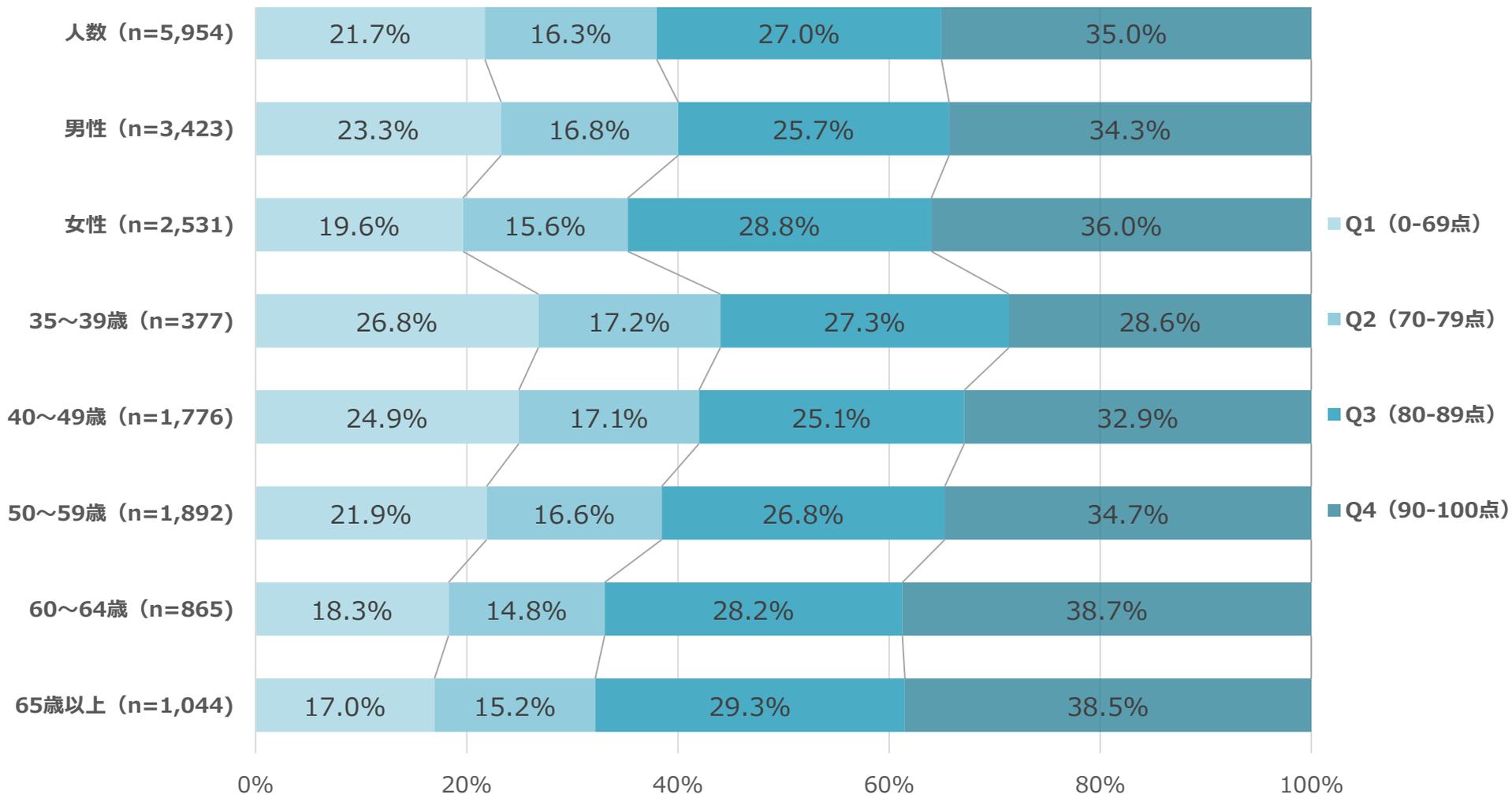
- 令和5年度に実施したアンケート調査に回答した被保険者6,267人（35～74歳）のうち、同年度末まで被保険者資格を継続し、健診を受診した5,954人を分析対象者とした。
- アンケートにおける東大1項目版の調査票※1により、「プレゼンティーズム得点」※2を算出した。
- 当該得点を四分位に基づき4群に分類  
**Q1 : 0-69 点、Q2 : 70-79 点、Q3 : 80-89 点、Q4 : 90-100 点**  
プレゼンティーズムと医療費（令和5年度）との関連を把握した。
- 各項目の検定については、以下のとおり行った。
  - 平均値の検定は分散分析、中央値の検定はKruskal・Wallisを使用した。
  - 平均値については、正規分布とならないため、すべての対象者の医療費を一律に+1円とし、対数変換を行ったうえで検定を行った。
  - Q1を基準とした群間差の検定は、平均値ではTukey・Kramer、中央値ではSteel-Dwassを使用した。

※1 病気やけががないときに発揮できる仕事の出来を100%として過去4週間の自身の仕事を評価してください(1～100%)。

※2 「プレゼンティーズム得点」は点数が高いほど生産性が高い状態を示す。

# 3. 対象者の基本特性(性年代別)

プレゼンティーズム得点 (性年代別)



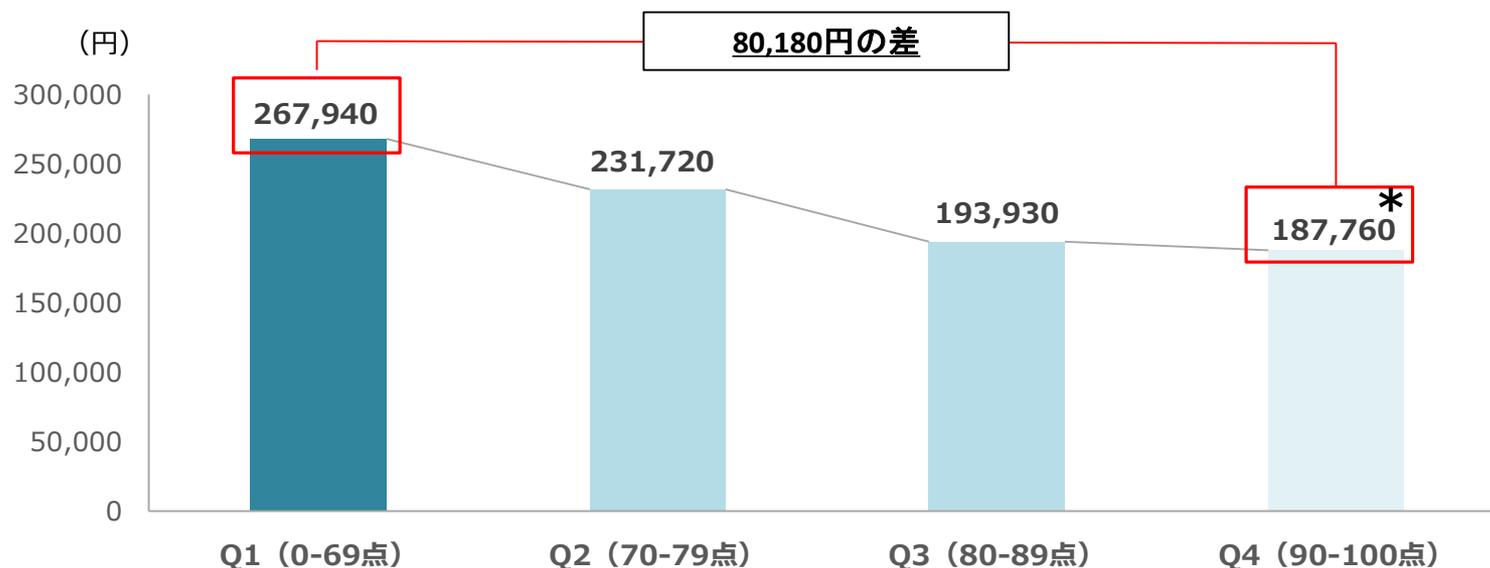
➤ 性別で比較すると女性の得点の方が高く、年代別で比較すると年代が上がるほど得点が高かった。

# 4. 結果 プレゼンティーズムと医療費の関係

「プレゼンティーズム得点」の四分位別における一人当たり医療費（円）の平均値（令和5年度）

総数（n = 5,954）		プレゼンティーズム得点							
		Q1（n = 1,293）		Q2（n = 969）		Q3（n = 1,606）		Q4（n = 2,086）	
医療費（円）	平均値 （標準偏差）	平均値 （標準偏差）	平均値 （標準偏差）	平均値 （標準偏差）	平均値 （標準偏差）	平均値 （標準偏差）	平均値 （標準偏差）	平均値 （標準偏差）	平均値 （標準偏差）
	213,990 (671,830)	267,940 (909,080)	231,720 (712,210)	193,930 (534,300)	187,760* (564,260)				

※Q1を基準に群間の差を比較 \*：P<0.05 \*\*：P<0.001



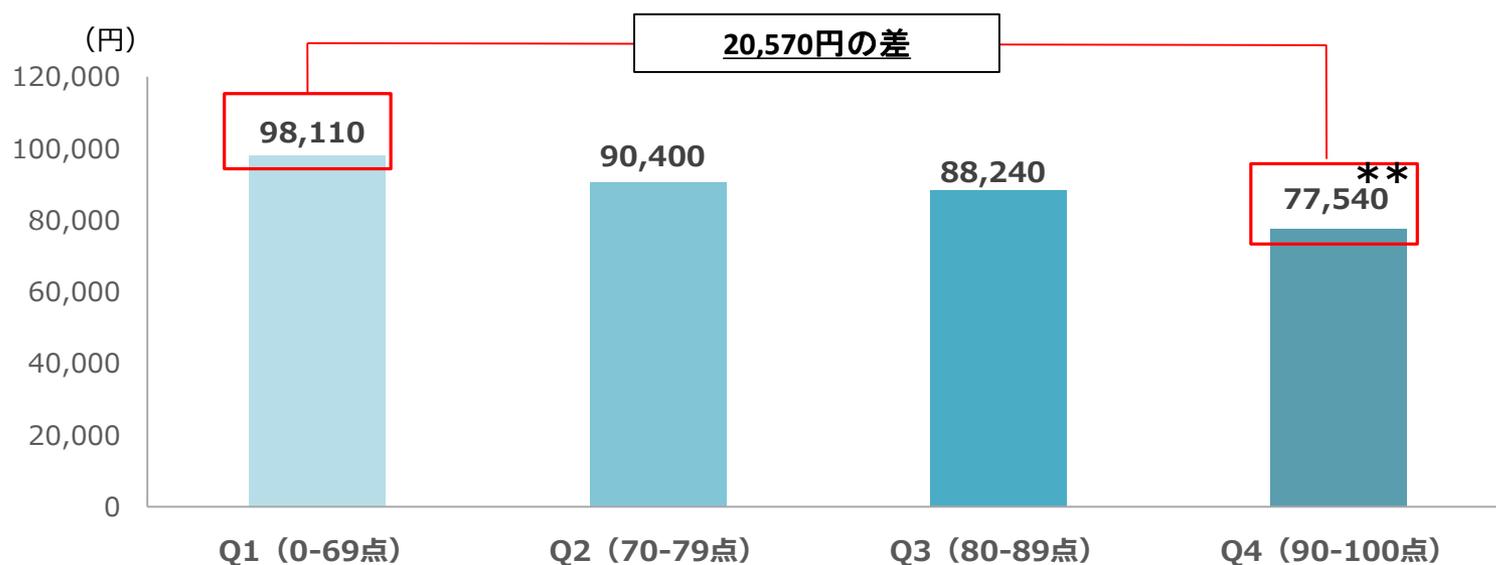
- 一人当たり医療費の平均値について、Q1（最低群）と比較して、Q4（最高群）は、有意に低かった。

# 4. 結果 プレゼンティーズムと医療費の関係

「プレゼンティーズム得点」の四分位別における一人あたり医療費（円）の中央値（令和5年度）

		プレゼンティーズム得点							
総数 (n = 5,954)		Q1 (n = 1,293)		Q2 (n = 969)		Q3 (n = 1,606)		Q4 (n = 2,086)	
中央値 (四分位範囲)		中央値 (四分位範囲)		中央値 (四分位範囲)		中央値 (四分位範囲)		中央値 (四分位範囲)	
医療費 (円)	87,110 (161,420)	98,110 (170,890)	90,400 (156,670)	88,240 (161,710)	77,540** (154,910)				

※Q1を基準に群間の差を比較 \*: P<0.05 \*\*: P<0.001



➤ 一人あたり医療費の中央値について、Q1（最低群）と比較して、Q4（最高群）は、有意に低かった。

# 4. 結果 プレゼンティーズムと医療費の関係

「プレゼンティーズム得点」の四分位別における“男女別”一人あたり医療費（円）の平均値（令和5年度）

総数		プレゼンティーズム得点							
		Q1 (0-69点)		Q2 (70-79点)		Q3 (80-89点)		Q4 (90-100点)	
平均値	(標準偏差)	平均値	(標準偏差)	平均値	(標準偏差)	平均値	(標準偏差)	平均値	(標準偏差)
(n = 3,423)		(n = 796)		(n = 574)		(n = 878)		(n = 1,175)	
男性	245,780 (820,000)	300,420 (1,081,310)	284,020 (892,960)	217,020 (621,280)	211,570 (697,210)				
(n = 2,531)		(n = 497)		(n = 395)		(n = 728)		(n = 911)	
女性	171,000 (386,460)	215,930 (523,670)	155,720 (277,150)	166,080 (403,980)	157,050* (317,320)				

※Q1を基準に群間の差を比較 \*: P<0.05 \*\*: P<0.001

- 一人あたり医療費の平均値について、女性において、Q1（最低群）と比較して、Q4（最高群）は、有意に低かった。

# 4. 結果 プレゼンティーズムと医療費の関係

「プレゼンティーズム得点」の四分位別における“男女別”一人あたり医療費（円）の中央値（令和5年度）

## プレゼンティーズム得点

	総数		Q1 (0-69点)		Q2 (70-79点)		Q3 (80-89点)		Q4 (90-100点)	
	中央値	(四分位範囲)	中央値	(四分位範囲)	中央値	(四分位範囲)	中央値	(四分位範囲)	中央値	(四分位範囲)
		(n=3,423)		(n=796)		(n=574)		(n=878)		(n=1,175)
男性	88,100	(175,780)	96,930	(184,770)	98,510	(174,150)	87,320	(180,350)	77,380*	(172,850)
		(n=2,531)		(n=497)		(n=395)		(n=728)		(n=911)
女性	84,970	(141,960)	101,220	(150,870)	75,930	(132,810)	89,970	(145,950)	77,590*	(134,760)

※Q1を基準に群間の差を比較 \*：P<0.05 \*\*：P<0.001

- 一人あたり医療費の中央値について、男女ともQ1（最低群）と比較して、Q4（最高群）は、有意に低かった。

# 4. 結果 プレゼンティーズムと医療費の関係

「プレゼンティーズム得点」の四分位別における“年代別”一人あたり医療費（円）の平均値（令和5年度）

	プレゼンティーズム得点									
	総数		Q1 (0-69点)		Q2 (70-79点)		Q3 (80-89点)		Q4 (90-100点)	
	平均値	(標準偏差)	平均値	(標準偏差)	平均値	(標準偏差)	平均値	(標準偏差)	平均値	(標準偏差)
～39歳	170,530	(629,540)	228,810	(609,980)	111,580	(242,210)	184,490	(942,860)	138,210	(394,790)
	(n=377)		(n=101)		(n=65)		(n=103)		(n=108)	
40～49歳	163,870	(703,060)	217,970	(1,144,450)	175,710	(407,200)	165,040	(654,290)	115,790*	(307,660)
	(n=1,776)		(n=443)		(n=303)		(n=446)		(n=584)	
50～59歳	185,160	(619,130)	178,740	(369,630)	244,160	(1,001,240)	159,030	(262,420)	181,180*	(696,620)
	(n=1,892)		(n=414)		(n=314)		(n=507)		(n=657)	
60歳以上	297,780	(692,710)	456,070	(1,064,920)	304,460	(647,600)	251,300	(503,830)	257,910	(601,960)
	(n=1,909)		(n=335)		(n=287)		(n=550)		(n=737)	

※Q1を基準に群間の差を比較 \*：P<0.05 \*\*：P<0.001

➤ 一人あたり医療費の平均値について、40歳代において、Q1（最低群）と比較して、Q4（最高群）は、有意に低かった。

# 4. 結果 プレゼンティーズムと医療費の関係

「プレゼンティーズム得点」の四分位別における“年代別”一人あたり医療費（円）の中央値（令和5年度）

総数		プレゼンティーズム得点							
		Q1 (0-69点)		Q2 (70-79点)		Q3 (80-89点)		Q4 (90-100点)	
中央値	(四分位範囲)	中央値	(四分位範囲)	中央値	(四分位範囲)	中央値	(四分位範囲)	中央値	(四分位範囲)
	(n=377)	(n=101)		(n=65)		(n=103)		(n=108)	
~39歳	45,420 (101,520)	62,170 (124,950)	59,600 (88,510)	48,190 (96,870)	27,760* (90,440)				
	(n=1,776)	(n=443)	(n=303)	(n=446)	(n=584)				
40~49歳	53,170 (112,100)	67,280 (130,480)	63,480 (127,680)	56,190 (107,850)	41,670** (96,130)				
	(n=1,892)	(n=414)	(n=314)	(n=507)	(n=657)				
50~59歳	83,620 (150,640)	97,140 (161,580)	89,630 (153,430)	90,850 (154,510)	73,320* (134,280)				
	(n=1,909)	(n=335)	(n=287)	(n=550)	(n=737)				
60歳以上	139,060 (208,670)	157,430 (260,280)	145,860 (203,960)	133,030 (213,320)	131,400* (187,260)				

※Q1を基準に群間の差を比較 \*：P<0.05 \*\*：P<0.001

➤ 一人あたり医療費の中央値について、すべての年代において、Q1（最低群）と比較して、Q4（最高群）は、有意に低かった。

# 5. 考察

- 本研究の結果から、「プレゼンティーズム得点」が高いほど一人当たり医療費が低い傾向であることがわかり、プレゼンティーズムと医療費に関連性があることが示唆された。
- 一方で、本研究の限界として、プレゼンティーズムと医療費の因果関係を明らかにするまでには至らなかった。今後の課題として、相互の影響度合を調査する方法を検討する必要がある。
- 今回の結果を加入者及び事業主に広く周知し、健康経営の重要性を発信していきたい。また、今後は、医療費データだけでなく、健診結果など、他のデータを組み合わせながら、本研究をさらに発展させていきたい。